令和３年度　園としての自己評価

加古川市立やまて幼稚園

（A；十分成果があった　B；現状でよい　C；一部改善を要する　D；改善を要する）

評価項目	評　価　の　観　点	評価	◎成果　　△課題
教育目標	幼児の発達や地域の実態に即し、幼稚園の特性を活かした内容であったか。	B	◎コロナ禍、例年より経験・体験をする機会が少ないが、野菜を苗から育てたり、収穫後、家庭に持ち帰ったりしながら、園と家庭が連携をした取り組みができた。 △３歳児保育を視野に入れながら検討をする必要がある。
	本園の諸課題に即した内容であったか。	B	
	幼児の発達に応じた経験や体験が得られるような援助や環境構成が計画的に行われていたか。	B	
	指導計画案を通して、計画的・組織的に目標の具現化が図られていたか。	B	
保育活動	幼児の内面理解に努め、教師のかかわりや援助は適切であったか。	B	◎少人数ならではの取り組みとして、個々がのびのびと過ごせるように心がけた。 ◎発達や活動内容に適した遊びを教師同士で話し合いながら取り組めた。 △日々変化が見られる子どもの様子に戸惑うことが多く、記録等を活用しきれていないこともあった。
	発達に必要な援助ができ、主体的な遊びが展開できるような環境構成であったか。	B	
	保育記録を活用し、日々の指導につなげることができたか。	B	
	自然体験や友達との交流を通して、豊かな感性や社会性を培う心の教育が出来ていたか。	B	
運営・組織	教職員一人一人が、園経営への参画意識を持ち、目標達成に努めていたか。	B	◎様々なことについて、職員全員で共通理解をして取り組めている。 ◎コロナ対応に際しても、職員で協力しながら対応できた。 △３歳児保育が始まったが、３年保育を見通した育ちや学びを考えた保育を進めるところまではいかなかった。
	教職員全員が共通理解に努め、職務分担を積極的に遂行できていたか。	B	
	教職員が互いに努力を認め合い励ましあって、明るい職場づくりに努めてきたか。	A	
	安全や防災に関する組織を作り、常に危機管理意識を持って取り組めてきたか。	A	
研修・研究	幼児の実態を踏まえ、内面理解に努めるとともに、研究・研修を通して、幼児に育ちがあったか。	A	◎研修で学んだことを園で話し合い、子どもへの指導や接し方を共通理解しながら、保育活動に生かしている。 △業務改善が言われる中、若い先生を育てていく在り方について検討が必要である。
	さまざまな障害に応じた指導にあたるなど、合理的配慮を図りながら専門性の向上に努めてきたか。	B	
	社会の状況の変化に対応した幼稚園教育のあり方、教育課題の把握に努め、積極的に園内外の研修会に参加し、自らの資質向上に努めてきたか。	B	
家庭・地域との連携	学校園連携ユニットの取り組みを踏まえ、保育内容の連続性・系統性など、計画的に実施できたか。	B	◎保護者へは、園での様子をなるべく細かく伝えるように心がけてきた。 △懇談会や行事等、地域の方々に来ていただく機会がなかったが、園から発信できることを考えていきたい。
	園だより、やまて通信、個別懇談会、送迎時の話し合い等により、園の教育目標や方針を知らせ、保護者と相互理解を図るとともに、信頼関係を深めてきたか。	B	
	子育ての不安や悩みを受け止め、地域の子育てセンターとしての役割を果たしてきたか。	B	
行 事	各行事の時期や内容は適切であったか。また、創意工夫され、幼児にとってふさわしい内容であったか。	B	△コロナ禍でもあり、行事の実施の可否も含め、どのようにするか、ギリギリまで判断を迷うことが多かった。
	地域の教育力を活用し、幼稚園の教育活動に活かした計画・実践・評価ができたか。	B	